

## 帯状疱疹

**帯状疱疹**は水痘・帯状疱疹ウイルスによって引き起こされる皮膚疾患で、体の左右どちらかの神経に沿って痛みを伴う水ぶくれが多数集まって帯状に生じます。

## 原因

帯状疱疹の原因は、多くの人が子どもの頃に感染する水ぼうそうと同じ「水痘・帯状疱疹ウイルス」です。

水ぼうそうが治った後も、ウイルスは背骨に近い神経に症状を出さない状態で潜んでおり、加齢や疲労、ストレスなどによって免疫機能が低下するとウイルスが再び目覚め、帯状疱疹として発症します。



神経痛が残る場合もあり、日常生活に影響が出ることも...

帯状疱疹が疑わしい場合は**すぐに皮膚科に受診し、治療を開始**することが大切です！

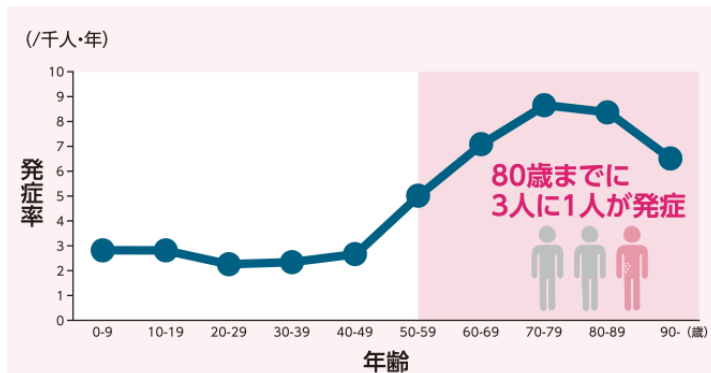
## 発症後の経過

初期症状	体の左右どちらかの神経に沿って生じる皮膚の痛みや違和感、かゆみなどです。 痛みは神経の炎症によって引き起こされます。
発疹が出る	発疹は、皮膚の痛みや違和感、かゆみなどが起こった場所に現れます。発疹は、最初はわずかな盛り上がりや丘疹と呼ばれる小さなぶつぶつです。胸や背中、腹部など多くは上半身に現れ、顔面や目の周りにみられることもあります。
水ぶくれを経て治癒する	発疹は、その後小さな水ぶくれに変化していきます。水ぶくれや膿は1週間ほどで破れ、その後かさぶたとなり、皮膚症状は3週間前後で治まりますが、色素沈着や傷跡が残る場合もあります。

## 帯状疱疹になりやすい人

帯状疱疹の発症には年齢が大きくかわり、高齢になると発症しやすくなります。加齢による免疫機能の低下が原因と考えられています。

兵庫県で1987年から2016年に行われた疫学調査では、50～70歳代で患者数が多くなっています。



## 治療

帯状疱疹の治療は、原因となっているウイルスを抑える抗ウイルス薬と、痛みに対する痛み止めが中心となります。帯状疱疹の痛みは発疹とともに現れる痛みと、その後、神経が損傷されることにより長く続く痛みに分けられ、それぞれに合った痛み止めが使われます。

## 予防

ワクチンの助成金もあります。お住まいの地域によって制度が異なりますので、ご確認ください。

- 予防接種を受ける。→ワクチンは2種類あります。50歳以上の方は予防について医師にご相談を！
- 免疫機能を高める。→日頃から十分な休息をとりながらバランスの良い食事と適度な運動を心がけましょう。ストレス解消法を見つけておくのも良いですね。

